

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：30124

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K02733

研究課題名（和文）「経験省察型」卒業論文・修士論文指導モデルの開発研究

研究課題名（英文）Development of "experience-reflection type research papers" model for mature student in graduate courses

研究代表者

三輪 建二 (MIWA, Kenji)

星槎大学・教育実践研究科・教授

研究者番号：50212246

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：修士課程・専門職学位課程で学修する社会人院生は、学術研究への貢献に加え、「自らの経験知の理論的整理」をめざして論文をまとめたいとするニーズを持っている。しかし大学院教員の論文指導は、論文の種類を問わず、「経験知」の理論的整理よりは、先行研究の整理とリサーチ・クエスチョン、厳密な研究方法による検証と学会への後見という「仮説検証型」の研究論文指導となっているのではないかと。以上の仮説のもと、本研究では、大学院教員11名、院生6名にインタビュー調査を行い、欧米の先行研究の整理を踏まえて、社会人院生の「経験知・暗黙知」と「理論的整理」とを統合する「経験省察型」論文指導モデルを開発することを行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は大学院教員に対する論文指導上の啓発である。社会人院生の実務経験への尊重と同時に、経験に潜む価値観の「省察」と「変容」を促す指導の必要性（問題の設定、メンタルマップの確認）を指摘できた。実務家教員が暗黙に持つ論文指導観のうち活用できるものを抽出できた（「実務経験」と「理論」の媒介者役割の自覚化など）。

さらに、以上の段階に時間をかけたうえで、研究テーマの絞り込み、少数の先行研究の吟味、厳密性よりも適切性を重視する質的研究法の採用など、一連の論文指導の筋道を明らかにすることができた。最終的には以上の諸要素を持つ「経験省察型」論文指導モデルを完成させ報告書で世に問うことができた。

研究成果の概要（英文）：In this research in three years, first some precious research papers were analyzed. Secondly it was analyzed some characters of instruction for master's thesis and research papers for professional mature students in Graduate Schools in Japan. From interviews to 11 academic staff in Graduate schools, where they were teaching and instructing professional mature students, the following investigation results were shown: 1) a flexible approach for program completion; 2) instruction to reflective and biographical research approach (reflection in and on action, relativity of thinking and discussion, a bridge between theories and biographical life story etc.). Women staff and women professional students also proposed issues related to life, and flat discussion must be important especially for the independence of the women.

研究分野：高等教育、生涯学習

 キーワード：省察（リフレクション） 高等教育 論文指導 適切性 質的研究 対人関係専門職 社会人大学院生  
経験省察型

### 1. 研究開始当初の背景 社会人学生・社会人院生と受け入れ体制の整備

文部科学省学校基本調査によると、社会人院生は平成 27(2015)年度は 57,104 人、院生に占める割合は 22.9% である。社会人学生数は、平成 22(2010)年度は 50,188 人である(文部科学省『大学・専門学校等における社会人の学び直しについて』2012 年)。

社会人学生・院生の受け入れについて、視点をハード面の整備の問題から、社会人学生の学修と教育・指導へと移すならば、焦点は、彼らを自発性と経験を兼ね備えた「成人学習者」として扱い、彼らの卒業論文・修士論文・専門職学位取得論文の指導のあり方を再構築することとなる。

・社会人学生の学修ニーズは理論志向で「職業経験・社会経験の理論的整理」を好む

社会人学生の指導に関する調査には、『大学院修士課程における社会人教育』(労働政策研究・研修機構調査研究報告書 No.91、1997)がある。「修士論文」に関する調査のうち、「社会人に対しても一般学生と同等以上の高い水準を課す」という項目について、教員側は 76.0% が当てはまる(かなり当てはまる 41.1%、少し当てはまる 34.9%)と回答している。『社会人大学院修了者の職業キャリアと大学院教育のレリバンス』(本田由紀編、東京大学社会科学研究所、2003 年)の中で加藤毅は、理系・文系を問わず、社会人の進学動機として「もっとも多くみられるのが『仕事経験の理論的整理』で「全体の 62% が該当する」(72 頁)としていいる。下の図のようになる。

『社会人の大学院教育の実態把握に関する調査研究』(平成 21 年度早稲田大学 文部科学省・先導的大学改革推進委託事業、2010)では、大学院の学位授与の方式の 83.3% が「研究ベースの学位」であり、「業績ベースの学位」(6.3%)、「実践ベースの学位」(5.4%)を優位に上まわると指摘する(同、28 頁)。社会人が重視する教育方法は、「実務経験のある教育・講話による指導」4 位、「個別的教育指導」3 位、「事例研究・ケーススタディ」2 位で、第 1 位は「レポート・論文作成指導」(28%)となっている。

### 進学動機第1位は「仕事経験の理論的整理」

- 社会人学生・院生の多くは実用志向というよりは理論志向である。
- 単なる理論・研究の学修ではなく、仕事経験(職業経験・社会経験)を理論的に整理することに関心がある。

社会人学生・院生の多くは、実用的知識に加え、「経験知」の「理論的整理」を目的として入学し、卒業論文や修士論文等に向かおうとしている実態がある。

### 2. 研究の目的 研究課題と学術的「問い」

以上の実態をふまえた上で、次のような論文指導上の課題と、学術的な問いを設定する。・社会人学生の職業経験・社会経験、いわゆる「経験知」と、大学・大学院が提供する「研究知」とが論文の執筆目的や指導において葛藤、対立状況に置かれる傾向がある。・論文を指導する大学教員は「研究知」を修得しており、卒業論文・修士論文の評価権や修了の判定権を持つことから、自らの「研究知」を学生・院生の「経験知」に優位させる傾向がある。

学術的な問い

社会人学生・院生は論文指導において「経験知」の「理論的整理」を求めているのに対し、大学教員側の論文指導が先行研究の不備、研究仮説の提示と仮説の検証、学術面・学会面での貢献という従来の枠組みに終始し、学生や院生の学修ニーズから乖離しているのではないか。

「仮説検証型論文指導」に加え、「経験省察型論文指導」モデルを開発する必要があるのではないか。

### 3. 研究の方法文献研究：

社会人学生・院生の経験知・実践知・暗黙知に関する文献研究・Nancy & Keith Appleyard (2015), "Reflective Teaching and Learning in Further Education" Critical Publishing の翻訳作業を行う。・各大学に問い合わせ、論文指導要綱やマニュアルの資料収集を行う。・今津孝次郎『新版 社会変動の教師教育』(名古屋大学出版会、2017年)における PhD 論文指導と EdD (博士(教育)) 論文指導を研究し、今津先生にインタビューを行う(名古屋市内)。

社会人学生・院生の論文指導を行っている大学教員(研究者教員と実務家教員)11名、院生6名に半構造化面接を実施する。

専門領域(人文科学、社会科学、看護学、介護福祉学、教育学)の担当教員に、半構造化面接で指導方針、経験省察型論文指導に関する意見を確認する。

### 4. 研究成果

以下の3点において、研究成果が見られた。

#### 研究成果

研究成果のポイントは以下のとおりである。

#### 社会人大学院生の理解

- ・社会人大学院生の学修環境に対する理解の必要性がある。
- ・社会人大学院生の実務経験・大学院での学修観への理解の必要性がある。
- メンタルマップ、問題の解決より問題の設定、経験の省察と言語化など

#### 大学院教員自身によるみずからの論文指導観官の省察と言語化

- ・教員には院生に対する問いの設定としての「実存的な問い」を呼びかける。
- ・問いの設定として「理念」の提示がある。
- ・社会人大学院生の「フレーム」(メンタルマップ)への注目とフレーム(メンタルマップ)の省察の指導がある。
- ・実務家教員には実践と理論との「橋渡し」の役割がある。

研究成果の報告を3年間で進めることができた。

### 1. 2冊の翻訳書の刊行

文献研究の成果としては、2冊の英国の社会人大学院生の論文指導に関する翻訳書を刊行することができた。

- ・N & K・アップルヤード、三輪建二訳(2018). 教師の能力開発：省察とアクションリサーチ. 鳳書房.
- ・S・ウォレス、三輪建二訳(2020). 教師がまとめる研究論文：量的研究・質的研究・アクションリサーチ. 鳳書房.

### 2. 研究論文・実践報告論文

研究論文を刊行することができた。

- ・三輪建二(2019). 今、教師とは～教育実践を省察するということ. ねざす(神奈川県高等学校教育会館教育研究所) 63号, pp.49 - 55
- ・三輪建二(2019). 教員など対人関係専門職が大学院で学ぶ意味：科研費調査から見えるもの. 星槎大学教育実践年報 No.2, pp.7-20.
- ・Kenji MIWA (2019). A Study about the Instruction for Master's Thesis and Research Works for 'Experience Reflection' in Graduate Schools in Japan: Interview with the Academic Staff. Revista Brasileira de Pesquisa (Auto) Biografica 12 (4), pp.893-902
- ・三輪建二・大野精一(2020). 省察的实践とアクションリサーチ：アップルヤード夫妻のワークショップを中心に. 星槎大学大学院紀要 第1巻第1号, pp.36-48.
- ・三輪建二(2020). アクションリサーチをめぐる研究動向. 星槎大学大学院紀要 第1巻第1

号、pp.49-55.

- ・三輪建二(2020). 社会人学生・院生の論文添削指導 社会人学生向けの朱字によらない指導と成人学習論 . 星槎大学教職研究 5号、pp.55 - 60

### 3 . 研究発表

研究論文・報告書に関連しての発表を行った。

- ・Kenji MIWA (2018). Some Discussion about Practical Research Papers on Education -Toward Construction of a New Model. International Conference on Culture, Biography and Lifelong Learning, Busan National University
- ・三輪建二(2018) . 学び続ける教員と専門職：教員の資質向上をめざして . 吉備国際大学講演会 . 2018年10月28日
- ・三輪建二(2018) . 教員など専門職が大学院で学ぶ意味とは～科研費調査から見えてくるもの . 第4回星槎教育実践研究会、2018年12月8日
- ・三輪建二(2019) . 成人学習理論と看護教育実践 . 日本看護学教育学会シンポジウム基調講演 . 2019年9月5日

### 4 . 報告書の刊行

初年度と最終年度に、研究成果をまとめて報告書を刊行することができた。

- ・三輪建二(2019) . 「経験省察型」卒業論文・修士論文指導モデルの開発研究～インタビュー調査報告書～ . 平成30(2018)年度 基盤研究(C)(一般) .
- ・三輪建二(2021) . 社会人院生の研究論文と論文指導報告書 . 平成30(2018)年度～令和2(2020)年度基盤研究(C)(一般):「経験省察型」卒業論文・修士論文指導モデルの開発研究 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 三輪建二、大野精一	4. 巻 1
2. 論文標題 省察的实践とアクションリサーチ：アップルヤード夫妻のワークショップを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 星槎大学大学院紀要	6. 最初と最後の頁 36-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三輪建二	4. 巻 1
2. 論文標題 アクションリサーチをめぐる研究動向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 星槎大学大学院紀要	6. 最初と最後の頁 49-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kenji MIWA	4. 巻 12
2. 論文標題 A Study about the Instruction for Master Thesis and Research Papers for "Experience Reflection" in Graduate Schools in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Revista Brasileira de Pesquisa (Auto) Biografica	6. 最初と最後の頁 893-902
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 三輪建二	4. 巻 4
2. 論文標題 対人関係専門職の大学院での学修とその支援：「専門職者としての能力開発」の授業を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 星槎大学教職研究	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三輪建二	4. 巻 3
2. 論文標題 教員など対人関係専門職が大学院で学ぶ意味：科研費調査から見えるもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育実践年報（星槎大学教育実践研究会）	6. 最初と最後の頁 7 - 20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三輪建二	4. 巻 5号
2. 論文標題 社会人学生・院生の論文添削指導：社会人学生向けの朱字によらない指導と成人学習論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 星槎大学教職研究	6. 最初と最後の頁 55-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 三輪建二
2. 発表標題 医療危機の漢方薬としての「リフレクション」
3. 学会等名 星槎大学教育セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三輪建二
2. 発表標題 看護実習とリフレクション
3. 学会等名 リフレの会（関西医科大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenji MIWA
2. 発表標題 Some Discussion about Practical Research Papers on Education -Toward Construction of a New Model
3. 学会等名 International Conference on Culture, Biography and Lifelong Learning, Busan National University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三輪建二
2. 発表標題 教員など専門職が大学院で学ぶ意：科研費調査から見えるもの
3. 学会等名 第4回星槎教育実践研究会研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三輪建二
2. 発表標題 成人学習理論と看護教育実践
3. 学会等名 日本看護学教育学会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 ナンシー & キース・アップルヤード (三輪建二訳)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 鳳書房	5. 総ページ数 204
3. 書名 教師の能力開発：省察とアクションリサーチ	

1. 著者名 三輪建二	4. 発行年 2021年
2. 出版社 自費出版	5. 総ページ数 145
3. 書名 社会人院生の研究論文と論文指導報告書	

1. 著者名 スーザン・ウォレス（三輪建二訳）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 鳳書房	5. 総ページ数 214
3. 書名 教師がまとめる研究論文：量的研究・質的研究・アクションリサーチ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 International Conference on Clture, Biography and Lifelong Learning	開催年 2018年～2018年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------